



ごみの減量を「土づくり」と「地域の絆づくり」につなげる

ごみの減量には生ごみを出さないことが、いちばん有効な方法です。そのためには土の分解力を利用することがいちばんです。市でもダンボールコンポストの普及に力を入れていますが、せっかくなつくった良質なコンポストを結局、燃やせるごみに出さざるをえないことも多いです。

所々に地域菜園の取組は見られますが、市街地に近いところでは、どんどん宅地化がすすみ、畑地や土の面倒を見ることが少なくなっています。

食物由来の生ごみを燃やしてしまい、その灰も土に戻さないと、土が貧しくなり、それがまわりまわって海の魚や貝の生育にも影響を与えているのではないかと心配しています。

そこで地域の有志の人達を募って、ダンボールコンポストを作ってもらったり、自宅に家庭菜園のある家では、生ごみを様々なやりかたで土に返し活用してはどうかと考えます。

ごみを減量し、よい土をつくり、おいしい野菜や夏みかん、梅などを栽培し、収穫したものを地域でうまく循環する体制をつくることできれば、ごみ減量・土づくり・地域の絆づくりなど、一石三鳥以上の効果が期待できます。この地域菜園で収穫されたものは地域のイベントや、福祉施設のバザーで販売したり、自治会シニア部の運営に一役買っている例もあります。



経費老人ホームのバザーへの出店

タマネギ畑での収穫

このような成功例が一つでも二つでも増えていけば、地域のメディアにも協力をお願いして、どんどん減りつつある田畑を有効活用して、減少に歯止めをかけ、地域の自然環境を維持することにも効果があります。

ごみ減量の効果としては、実施した家庭では、「燃やせるごみ」に出すごみ量は半減することは確実です。

燃やせるごみ1人1日500gとしてその半分250gを減らすことができます。

浮田正夫

実はこのアイデア、市の「ゴミ減量アイデアコンテスト」一次審査でボツになりました(T_T)

ニャンともねえ〜



花王にやんともネコ

「ごみ減量の可能性について考える」

日時：平成30年7月4日(水) 18:00～ **場所**：銀天エコプラザ3階 大会議室
問題提起：「ごみ減量の必要性と方向性について」 浮田正夫（うべ環境コミュニティー）
事例発表：「友の会のこれまでの取組紹介～ごみ減量を中心にして」

栗屋千恵子（宇部友の会）

「消費者の会のこれまでの活動紹介～リユース、ごみ減量等の取り組み等」

藤本米子（宇部消費者の会）

宇部市は、今年度はごみ減量に力を入れられ、ごみ減量アイデア募集にも50を超える提案が寄せられたようです。また全国29のSDGs未来都市にも選ばれ、持続可能な社会実現に向けて、着実に具体的な社会課題を解決することが求められています。

今年度の環境サロンあるいはESD研修会でも、このような背景を

環境サロンは、身近な環境問題などをテーマに、皆で気軽に学び、語りあえる場です。一度だけのご参加も歓迎です。

参加費：200円(資料代) 高校生以下無料

☆お問い合わせ：まちなか環境学習館 TEL 0836-39-8110



まちなかおそうじ隊

初参加
大歓迎!

どなたでも申込不要で
ご参加頂けます!

7月29日(日)
15:00～
学習館前集合
道具不要

学習館では、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケード、塩田川、中川等を掃除しています。メンバーはその日集まってくださった方々。楽しく「まち」をきれいにしませんか？おそうじ後はお茶会でホッとひと息♪



宇部市環境学習ポータルサイト
「うべっくる」

うべっくる

検索

<http://www.ubekuru.com>

テクノ UMG 株式会社

2018年4月、テクノポリマー株式会社とUMG ABS株式会社は統合し、テクノUMG株式会社となりました。この度、宇部地区における環境技術の紹介として、VOC削減・臭気低減の現状と近年の環境設備改善について取り挙げます。

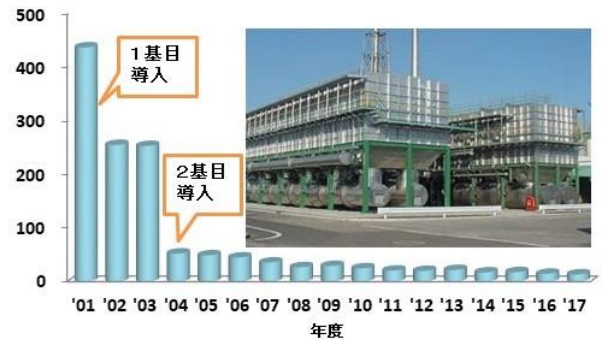
前身のUMG ABSでは、環境負荷低減の取組みとして揮発性有機化合物（VOC）の排出量削減を目標に、2002年に蓄熱燃焼式排ガス処理装置1基を設置しました。その効果として、VOCの排出量はおよそ半分に、さらに2004年には2基目の同排ガス処理装置を導入し、1/10以下まで削減しました。

排ガス処理施設の導入以降は残された大気放出個所の排ガス燃焼装置への繋ぎ込みを継続的に増やすなどして、排出量の削減に努めております。

近年では、臭気低減を改善目標とした計画的な設備改善に取り組んでいます。具体的には荷揚げ時にタンクから発生するガスを船舶側に戻すためのベーパーリターンを2基設置しました。

排出量(t/y)

VOC排出量



更に、貯蔵時のタンク呼吸ガス発生を抑制するため、主原料貯蔵タンクのタンク内に浮き蓋を設けたインナーフロート式タンクへの更新を2基行なっています。これらの運用開始により、2016年度の大気排出分は、年間約3tの削減を達成し、2017年度についても昨年度より年間約1.2tの削減効果を挙げています。

今後も引き続き設備投資を行ない、VOC削減・臭気低減に努め、環境への更なる負荷低減に取り組んでまいります。

テクノUMG株式会社
宇部工場 井上 幹雄

ESDの平成30年度フォローアップ事業が進んでいます

平成28年度、29年度と続いた環境省の協働取組加速化事業は、終了しましたが、ESD(持続的な開発が可能な教育)のフォローアップ事業を続けています。この事業は本年4月に発足した「ESDうべ推進協議会」が中核となって推進しており、その事務局をうべ環境コミュニティーが担当しています。

出前授業実施の支援は宇部市市民環境部環境政策課と宇部市地球温暖化対策ネットワークが担当していますが、環境教育の現場となる小中学校及び各地区のコミュニティスクールとのコンタクトの企画立案は、宇部市の環境学習データベースを活用しながらESDうべ推進協議会メンバーが行っています。



各地区の取り組み状況

藤山校区	宇部市環境政策課の環境学習プログラムに伴走しながら、環境教育の評価検証を実施して行く。
上宇部校区	地域の子ども達と保護者、山口大学工学部及び宇部高専の留学生と家族を対象とする「食育」イベントを年3回開催する。このイベントは、環境・ごみ減量に関する研修会と、インターナショナルな料理の共同調理と会食、その後のフリーターキングをメニューとする。このイベントにおいて環境問題の議論の輪を広げる。
東岐波校区	東岐波小学校における「理科(環境)クラブ」の企画運営に協力して、合計8回の出前授業シリーズを実施予定。
常盤校区	校庭にフジバカマの植栽、秋にはアサギマダラの飛来観察、環境紙芝居などの事業に協力。
社会課題解決の取り組み(ディベート大会、パネルディスカッションなど)	各地区の活動成果を持ち寄り、社会課題の解決に向けて、ディベート大会や総合討論を企画実施する。

現在、藤山校区、上宇部校区、常盤校区、東岐波校区などで上記の表の取り組みが進行中です。各種出前授業の派遣は昨年度より倍増する状況です。

(ESDうべ推進協議会事務局長 薄井洋基)

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

◇H30.6.1よりメールアドレスが下記の通り変更になりました◇
TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~21時 HPアドレス; <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)

